

おうちで楽しむ!
草津れきし発見隊!!

くさつ 草津ものしりクイズ

上級編2 回答解説 (答え合わせ)

読むのがおぼつかしいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

もんだい 1	答えは①の「上水道」です。 これまでの調査から、草津宿では幕末期にはすでに上水施設（飲み水として利用可能な水の供給設備）が整備されていた痕跡が見つっています。
こたえ ①	竹製や粘土製の水道管を地中に埋設し、宿場内に上水路を張り巡らせていたようです。この水道管を通った水がどこから引かれていたのかは不明ですが、おそらく草津川の伏流水などの水を引いていたものと考えられます。

もんだい 2	答えは③の「ナスビ」です。 刃先が分かれておらず、茄子のような形をしていることから「ナスビ形農耕具」と名付けられました。
こたえ ③	ちなみに、稲作とともに伝わった農耕具の基本は「鋤 ^{すき} 」と「鍬 ^{くわ} 」で、どちらも土を耕すための道具です。現在では、柄と土に触れる部分が直線的に伸びたスコップのような形のものを「鋤」、柄と土に触れる部分が直角に連結した形のものを「鍬」と区別しますが、この農耕具は柄への差し方によって、どちらの用途でも使用できたといわれています。

もんだい 3	答えは①の「ボテジャコ」です。 この「めずし」とは、写真のようにこぶしほどの大きさに酒粕を丸めて、そこにボテジャコの頭部を指したもので、なれずし（魚・塩・米を材料とした発酵食品。鮎ずしなど）の原型ではないかともいわれています。
こたえ ①	老杉神社（下笠）の頭屋行事は、毎年2月15日に行われています。 頭屋行事ではめずし以外にも特徴的な神饌が、つくられています。



めずし

<p>もんだい 4</p>	<p>答えは③の「一遍上人絵伝」です。 「一遍上人絵伝」は正安元年(1299)、時宗の開祖である一遍の生涯を描いた ものです。</p>
<p>こたえ ③</p>	<p>このうち、巻七の一場面で、一遍が東国巡歴の後、尾張・美濃(現在の愛知県・岐阜県)を通り、京へ向かう最中に「草津」で宿泊したと書かれています。(文字部分に「草津」とあります) それまで現在の草津周辺は、「野路」という地名が記録に残っていますが、この「一遍上人絵伝」が描かれた時代以降は、「野路」に代わって「草津」という地名が登場するようになります。</p>

<p>もんだい 5</p>	<p>答えは②の「郵便局」です。 草津宿本陣は明治3年(1870)に本陣としての役目を終えると、明治12年(1879)～明治41年(1908)の間は栗太郡の郡役所として、昭和22年(1947)～昭和45年(1970)の間は公民館として利用され、長い間地域の中で存続してきました。</p>
<p>こたえ ②</p>	<p>そして、昭和60年(1985)に「史跡草津宿本陣保存管理計画」を策定し、平成元年(1989)から本陣の建物の保存整備工事が開始されます。 その後、約8年の大修理を経て、平成8年(1996)から一般公開が始まり、現在に至ります。</p>

<p>もんだい 6</p>	<p>答えは②の「史跡草津宿本陣」です。 問題5にあるように、史跡草津宿本陣は明治3年(1870)に本陣としての役目を終えましたが、前年の明治2年に、明治天皇の東京行幸の際に利用されました。これにより、昭和9年(1934)に「史跡明治天皇草津行在所」として指定されましたが、昭和23年(1948)にこの指定は解除されました。</p>
<p>こたえ ②</p>	<p>しかしその翌年、昭和24年に国史跡「草津宿本陣」として指定され、現在に至ります。</p>

【問合せ先】

草津市歴史文化財課 ☎525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp